

神の御心によってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、コリントにある神の教会と、キリスト・イエスにあって聖なる者とされた人々、召された聖なる者たち、ならびに至るところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めるすべての人々へ。イエス・キリストは、この人たちと私たちの主です。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。（Iコリント1：1～3）

パウロはキリスト教界最大の伝道者である。その伝道の模様は使徒言行録に記されている。当時小アジアと言われた現在のトルコ地方、当時マケドニア州、アカイヤ州と言われた現在のギリシアを疾風のように駆け巡り、キリストの福音を伝道し、キリスト者を生み出し、教会を建て続けた。幾多の迫害、困難に遭遇しながらも、福音伝道にひたすら邁進している。その迫力に圧倒される。彼のような伝道者はもはや、現れないであろう。

パウロは多くの手紙を書き残している。新約聖書には、パウロの名による手紙が最も多い。中には、パウロの名を借りて書かれた手紙もあるが、ローマ書、Iコリント書、IIコリント書、ガラテヤ書、フィリピ書、Iテサロニケ書、フィレモン書の7書は、パウロ自らが筆を執った書物である。ローマ書は、キリスト教を組織的、神学的に弁証した特異な手紙である。その他の手紙は、伝道している間に起こった様々な問題に対し、ある時は、怒り、ある時は、涙ながらに、また、ある時は、優しく諭し、キリストの福音は何であるか、その福音に従って生きるとは、どういうことであるか、言葉を尽くして書いている。彼の福音にかけた情熱が、直に伝わってくる。

キリスト教は、ナザレのイエスのガリラヤにおける神の国の宣教、そして、エルサレムでの十字架の死と復活に根拠を持つ宗教であるが、その宗教を、ローマ帝国内に伝道し、世界の人々に受け入れられる宗教にしたのは、パウロの功績である。パウロは、イエスをキリストと信じ、この信仰が人をいかに力強く生かし、自由と喜びに満ちた人生にしてくれるかを、書いている。彼はどんなに高く評価されても、され過ぎることはない。

さて、Iコリント書を読んでいきたいと思う。彼の手紙の初めには、必ず、三つのことが記されている。一つは、書き送り手の紹介である。Iコリント書の書き送り手は、パウロとソステネである。パウロは自己紹介として、「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされた」と書いている。彼は、神に召し出され、「使徒」とされたことを何より誇りにしている。使徒とは、主イエスの12弟子への名誉ある呼び名であるが、パウロは自分も使徒であると書いている。二つ目は、宛先である。Iコリント書の宛先は、「コリントにある神の教会と、キリスト・イエスにあって聖なる者とされた人々、召された聖なる者たち、ならびに至るところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めるすべての人々へ」である。コリント教会、そこには、神に召されて聖なる者とされ、イエス・キリストの名を呼び求める人々がいる。その人々に書き送ると記している。三つめは、「イエス・キリストは、この人たちと私たちの主です。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように」という共通の信仰と祝福の祈りである。イエス・キリストは私たちが全身全霊をもって従う主である。父なる神と、主であるイエス・キリストから、恵みと平和があるようにと、コリント教会への祝福を祈っている。